

登録番号 第 24485 号

Cs. オリゼ®リディア®EV 箱粒剤

特長：

- 本剤は育苗箱処理、移植時側条施用、は種時土中施用（湛水直播水稻）と様々な施用方法で使用できます。
- 水稻の重要病害虫である、いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシなどに優れた効果を発揮します。新規殺虫成分フルピリミンは既存殺虫剤への感受性が低下した害虫に対しても殺虫活性を示します。
- ミツバチへの影響はほとんどありません。

Cs. オリゼ、リディアは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール（化管法第1種）・・・16.0% ペンフルフェン（化管法第1種）・・・2.0%	包装	1kg×12 9kg×1
性状	褐色細粒	有効年限	4 年
毒性	普通物*	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2024 年 7 月 10 日付内容

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	フルピリミンを 含む農薬の総使 用回数	プロベナゾー ルを含む農薬 の総使用回数	ペンフルフェ ンを含む農薬 の総使用回数
稲 (箱育 苗)	白葉枯病 もみ枯細菌病 ニカメイチュウ フタバネコガネ イコガネ類 イネトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植 3 日 前～移植 当日	1 回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	3 回以内 (移植時までの処 理は 1 回以内、本 田では 2 回以内)		
	いもち病 紋枯病 イネトオイムシ イネミズゾウムシ ウカガキ類 ツマグロヨコバイ		移植 7 日 前～移植 当日					
	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネトオイムシ イネミズゾウムシ ウカガキ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタバネコガネ イコガネ類 イネトムシ	高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50～100g)	移植 3 日 前～移植 当日	1 回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	3 回以内 (移植時までの処 理は 1 回以内、本 田では 2 回以内)	2 回以内 (移植時まで の処理は 1 回 以内)	1 回

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	フルピリミンを 含む農薬の総使 用回数	プロベナゾール を含む農薬 の総使用回数	ペンフルフェ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネトオムシ イネズザウムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	移植時	1 回	側条施用	3 回以内 (直播では種時 又は移植時まで の処理は 1 回以内、 本田では 2 回以内)	2 回以内 (移植時まで の処理は 1 回以内)	1 回
湛水直 播水稻	いもち病 紋枯病 イネズザウムシ	1kg/10a	は種時	1 回	は種同時施 薬機を用い て土中施用 する。	3 回以内 (は種時までの処 理は1 回以内、本 田では2 回以内)	2 回以内 (は種時まで の処理は1 回 以内)	1 回

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (3) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - 1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
 - 2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - 3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- (4) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
 - 1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
 - 2) 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
 - 3) 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
 - 4) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
 - 5) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - 6) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
 - 7) 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
 - 8) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
 - 9) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1 箱当りに乾粒として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- (5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 使用後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。